

新幹線協議会第2回定期委員会開催③

JR東労組新幹線協議会第2回定期委員会答弁

はじめに新型コロナウイルスの感染の不安の中、そして例年より暑さが厳しい中で新幹線の安全・安定輸送をつくりだしている組合員の皆様に感謝を申し上げます。ありがとうございます。今回、JR東労組新幹線協議会第2回定期委員会を新型コロナウイルス感染防止のために書面による審議で開催しました。新幹線職場に所属する仲間と、各職場の運動の共有と交流をしていきたいという中で、新型コロナウイルス感染防止のために書面開催を理解していただき、同時に多くの1年間のたたかいと職場の声を届けていただいた皆さんに感謝を申し上げます。

新幹線協議会が発足して1年経過しますが、乗務員関係ではダイヤ改正の検証等、車両関係では山形新幹線車両センターにおける「グループ会社と一体となった業務体制のさらなる推進」「2020年度新幹線総合車両センター業務計画について」等、職場の仲間と要求を練り上げ、団体交渉を行ってきました。新幹線における乗務員基地再編について、5月26日に提案を受けました。東京新幹線運輸区(仮称)について、今後、更に具体的なものは再度統括本部が提案することになっています。上二運の仲間の声を聞きながら働きやすい職場にしていくために議論していきます。また改めて設備関係などの問題点もだされました。働きやすい職場をつくるために組合員の目線にたった運動をつくりだしていきます。

新型コロナウイルスに対し、多くの職場で不安をもって業務していることの発言をいただきました。新型コロナウイルスの感染防止のために職場でアンケートなど取り組みたっている分会や本当に苦勞をして安全と安定輸送を担う組合員の仲間に対して感謝を申し上げます。緊急事態宣言が解除されて以降、首都圏だけでなく地方でも感染者が拡大し、JR内でも感染者が増加しています。本部は新型コロナウイルスに感染しない、させないことを第一・に会社とも議論を積み重ねています。組合員の職場の現実と声を受け止め、問題を解決していくために会社に声を出し続け、安心して働く職場をつくりだしていきます。またコロナ禍であっても安心して鉄道を利用して頂くために、より実効性の高い感染拡大防止策を施し、「安心」「清潔」な環境でご利用頂ける環境づくりを目指していきます。

今、私たちはJR発足以降、初めての赤字の中で「雇用の危機」に直面しています。7月30日、JR東日本の2020年度第1四半期決算が出されました。JR東日本発足以降、初めての赤字決算となりました。コロナの影響ですが、働き方や生活様式が大きく変わる中で鉄道収入がコロナ以前に戻ることも厳しいと思われれます。とくに新幹線輸送は厳しい状況化の中で、経営の危機という現実を組合員と認識を併せることが重要です。同時に健全経営の会社をつくるために組合員と何ができるのかを考えなければいけません。

JR東労組新幹線協議会第2回定期委員会答弁(つづき)

7月8日JR東日本グループ社長会で深澤社長は、「この3ヶ月で鉄道事業は2600億円の減収、第1四半期は大幅な赤字になる状況だ。どのように反転攻勢していくか、強烈な危機感をグループ全体で共有しなければならない」と訴え、鉄道事業についても「鉄道事業のコスト構造にメスをいれ、運賃、ダイヤの問題にも取り組む。さらなる働き方の柔軟化に取り組みたい」とあいさつしました。変革2027は現実の問題になっていることを自覚しなければいけません。現在、「休業指示に係る就業規則等の改正について」を会社と議論を行っていますが、「新生JR東労組運動宣言」を軸に、組合員の雇用と利益を守るために声をだしていきます。一方で就業規則の改正の意見聴取で職場代表者に対して会社は「意見書を書いても就業規則は変わらない」「意見集約や組合に相談するのはなし」と言っています。労働組合は会社と団体交渉で議論できますが、社友会にはできません。労働組合の必要性を広げていかななくてはなりません。

今年4月にスタートしたジョブローテーションでは納得感のない説明がされ、労使が合意した施策なのにもかかわらず、苦情処理がだされる事態になった地本もあります。ジョブローテーションは団体交渉を積み重ね労使で合意した施策です。その中で本人希望含めて管理者とコミュニケーションをとる、希望通りにならなくてもフォローすることは団体交渉で議論してきたことです。本部は、申1号を会社に申し入れました。会社と議論していきますが、納得感ある施策にするために新幹線協議会も検証運動をつくりだしていきます。

大事なのは職場にJR東労組の声をだしていくことです。そのためにも職場にJR東労組組合員が過半数のいない職場は、社員代表選に立候補し勝利しなければいけません。目の前にある課題を通じて、労働組合の必要性を組合員だけでなく、離脱を余儀なくされた仲間にも訴えていかなければいけません。同時にその取り組みを通じて私たちが実現しなければいけないのは組織の強化・拡大です。全ての運動に組織の強化・拡大を位置づけていかなければいけません。新幹線ネットワークというつながりを強固なものにして、お互いの実践を語り合い、組織の強化・拡大を実現していきましょう!

以上、新幹線協議会としての答弁とします。

新幹線関係でもお問い合わせは新潟地本まで

**働きやすい職場を創り出していく為に、
組織拡大強化に邁進しよう!!**

おわり